

市民病院だより

新型タバコ

内科医師 尾形 徹

「新型タバコ」として、「加熱式タバコ」、「電子タバコ」が市販されています。新型タバコは歴史が新しく、長期間にわたる害に関するデータがありませんし、研究自体もまだ十分ではありません。現在分かっていることを簡単ですがまとめてみます。

加熱式タバコ

たばこ葉を凝縮したものを加熱して、その蒸気を吸引するものです。加熱式タバコでは「アイコス」が日本で9割を超えますが、世界的にみても日本が最も大きな市場です。他の国でも次第にシェアは拡大してきています。たばこ葉を使いますので、「紙巻タバコ」と同じくたばこ事業法で管理されます。

加熱式である紙巻タバコは8

で、まったくなくなるわけでは
ありません。

電子タバコ

00℃で燃やしますが、加熱式タバコは機種により加熱温は40℃から400℃前後と違いですが、加熱で蒸気を発生します。加熱式である紙巻きタバコと比べると、燃やさないのでタールが発生せず、より害が少ないと言われますが、タバコ葉を加熱するため当然ニコチンが含まれています。代表的な加熱式タバコである「アイコス」では加熱して出てくる蒸気でのニコチンは紙巻タバコの85%、発がん性物質を含む有害物質も各物質で濃度の大小がありますが出ています（加熱式タバコの方が濃度が高い有害物質もあります）（JAMA Intern Med 2017年7月3日）。

また、煙（主流煙、副流煙とも）や臭いは少ないと宣伝されていますが、加熱式の紙巻タバコに比べて少ないというだけ

英語では俗にvape（ヴェイプ）と呼ばれています。熱を発生させることによってエアロゾル（霧状に噴霧する装置です。最も大きな市場は米国、欧州では英国です。海外ではニコチン入りのリキッドが主流ですが、日本の薬事法では医薬品扱いになるので、日本国内ではニコチン入りは販売されません。

なお、日本国内で普及している安価なりキッドのものは外国製で内容が不明なものもあります。液体の風味をつけるフレーバーの化学物質の数、濃度と 관련된細胞障害性があることがわかっています。

また、個人輸入された海外製のものにはニコチンが含有されているものもあれば、発がん性のある化学物質が含まれているものもあります。

英国では禁煙のための製品として評価されています。例えば [New England Journal of

Medicine] 2019年1月30日オンライン版で、禁煙に対してニコチン置換療法より効果があるとの報告がありました。

ただし、リキッドに18mg/mlのニコチンが含まれており、1年時の禁煙者といっても、電子タバコを続けていた人が80%もいましたので禁煙といえるかとの批判があります。

これらの新型タバコについて『非燃焼・加熱式タバコや電子タバコに関する日本呼吸器学会の見解』では「①非燃焼・加熱式タバコや電子タバコの使用は、健康に悪影響がもたらされる可能性がある。②非燃焼・加熱式タバコや電子タバコの使用者が呼出したエアロゾルは周囲に拡散するため、受動吸引による健康被害が生じる可能性がある。従来の燃焼式タバコと同様に、すべての飲食店やバーを含む公共の場所、公共交通機関での使用は認められない」とされています。



お知らせ 小児科・産婦人科・自由診療の夕方診療を行っています。
(毎週木曜日) 詳細は、市民病院ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>